

受益者の皆さまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「インベスコ インカムセレクトファンド」は、このたび、第36期の決算を行いました。

当ファンドは米国の国債・地方債・投資適格事業債およびハイイールド事業債を主要投資対象とし、投資信託財産の成長を目標として運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



インベスコ インカムセレクトファンド

追加型投信／海外／債券



第36期末 (2015年4月24日)	
基準価額	8,595円
純資産総額	1,300百万円
第36期	
騰落率	13.0%
分配金(税込み)合計	100円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、インベスコ・アセット・マネジメント株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>
右記<お問い合わせ先>のホームページにアクセスし、「ファンド一覧」等から運用報告書(全体版)を閲覧およびダウンロードすることができます。

交付運用報告書

第36期

(決算日 2015年4月24日)

作成対象期間 (2014年10月25日～2015年4月24日)

インベスコ・アセット・マネジメント

東京都港区六本木六丁目10番1号六本木ヒルズ森タワー14階

<お問い合わせ先>

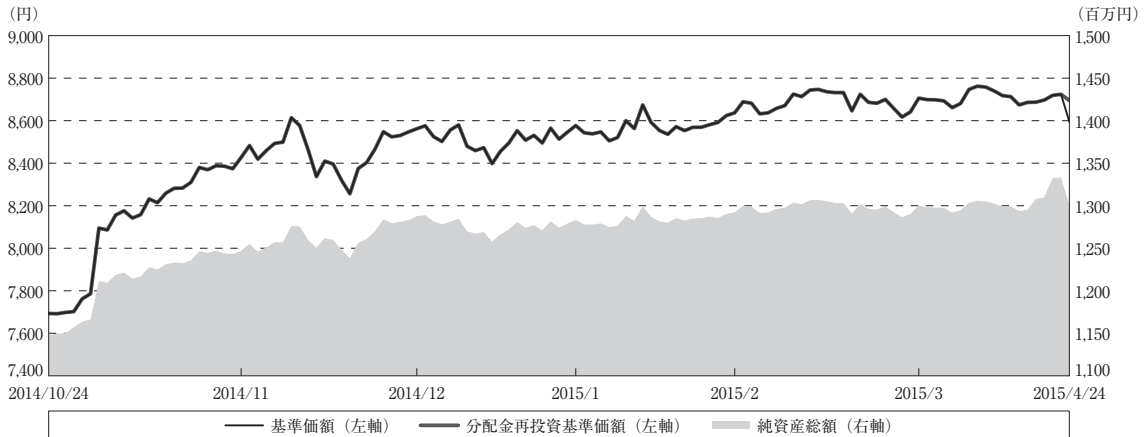
お問い合わせダイヤル：(03)6447-3100
(受付時間：毎営業日の午前9時から午後5時)

ホームページ <http://www.invesco.co.jp/>

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2014年10月25日～2015年4月24日)



期 首：7,693円

期 末：8,595円 (既払分配金 (税込み)：100円)

騰落率：13.0% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、期首 (2014年10月24日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

[上昇要因]

- ・米国の国債・投資適格社債およびハイイールド社債などを主要投資対象としたことから、米国債券市場において金利が低下 (債券価格が上昇) したことが基準価額の上昇にプラスに寄与しました。
- ・米連邦準備理事会 (F R B) が量的緩和の終了を決定する一方で、日本銀行が2014年10月末に追加緩和策に踏み切りました。日米両国の金融政策の方向性に大きな差異が生じる中、米ドル高/円安が進んだことが、基準価額の上昇にプラスに寄与しました。

[下落要因]

- ・特記すべき事項はありません。

1口当たりの費用明細

(2014年10月25日～2015年4月24日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円	%	
(投 信 会 社)	59	0.700	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(販 売 会 社)	(32)	(0.380)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等の対価
(受 託 会 社)	(22)	(0.266)	購入後の情報提供、運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
	(5)	(0.054)	ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	4	0.053	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(2)	(0.022)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(3)	(0.031)	監査費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	63	0.753	
期中の平均基準価額は、8,449円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2010年4月26日～2015年4月24日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2010年4月26日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2010年4月26日 決算日	2011年4月25日 決算日	2012年4月24日 決算日	2013年4月24日 決算日	2014年4月24日 決算日	2015年4月24日 決算日
基準価額 (円)	6,235	5,607	5,707	7,218	7,265	8,595
期間分配金合計(税込み) (円)	—	200	200	200	200	200
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 6.8	5.5	30.5	3.5	21.2
バークレイズ米国政府/クレジット・インデックス(ヘッジなし・円ベース)騰落率 (%)	—	△ 8.5	8.3	27.9	2.3	23.1
純資産総額 (百万円)	1,544	1,255	1,089	1,238	1,116	1,300

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 参考指数は、バークレイズ米国政府/クレジット・インデックス(ヘッジなし・円ベース)です。参考指数の詳細は10ページをご参照ください。
- (注) 参考指数は投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しているものです。

投資環境

(2014年10月25日～2015年4月24日)

＜米国債利回り＞

2年 0.51% (前期末0.39%)

5年 1.32% (同1.50%)

10年 1.91% (同2.27%)

30年 2.61% (同3.04%)

＜対円為替レート＞

米ドル／円 119円54銭 (前期末108円03銭)

※上記は当期末の数値です。

＜債券市場＞

米国債券市場では、①一部の景気指標が悪化したこと、②ユーロ圏で金利低下傾向が鮮明になったことなどを背景に2014年11月下旬に金利が低下しました。12月は雇用統計などの経済指標が米国の景気回復を示す結果となったものの、11月下旬に石油輸出機構（OPEC）が原油生産目標の据え置きを決めたことをきっかけに原油価格をはじめとする商品市況が下落傾向を強めたことも、金利低下の要因となりました。①米国景気指標の悪化が明らかとなったこと、②欧州中央銀行（ECB）が量的緩和の導入を決定したこと、③ギリシャ問題への懸念が強まったことなどを受け、2015年1月には金利低下がさらに進みました。

2月に入ると、金利は上昇に転じました。米国景気指標は改善が一服したことを示すものが散見されたものの、主要な株価指数が史上最高値を更新し、原油価格などの商品市況も反発となる中、金利は上昇しました。3月上旬まで金利上昇基調となったものの、ECBが量的緩和を実際に開始すると世界的に金利低下圧力が強まった結果、金利は低下に転じました。

投資適格社債をはじめとする国債以外の債券は、国債を下回るリターンとなりました。米国で量的緩和が終了となったことや世界的な景気減速懸念が高まったことを背景に2014年末から2015年初めにかけてクレジットスプレッドは拡大しました。しかし、その後市場が徐々に落ち着きを取り戻すとクレジットスプレッドは縮小に向かいました。

＜為替市場＞

当期の為替市場は、米ドルは主要通貨に対し堅調に推移する展開となる中、対円では1米ドル＝100円台後半から110円台後半に水準を切り上げる米ドル高／円安となりました。①米国景気が緩やかな回復傾向を続ける中、FRBが量的緩和を終了したため、利上げ開始に対する思惑が強まったこと、②日本銀行が2014年10月末に想定外の追加緩和措置を講じたことなどを背景に、米ドルは対円で大幅に上昇しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2014年10月25日～2015年4月24日)

米国の国債・地方債・投資適格社債およびハイイールド社債を主要投資対象とし、安定した成長が見込まれる業種を選別した上で、分散投資を行うことで、インカムゲインの確保に加え、キャピタルゲインの獲得を目指しました。ポートフォリオ構築にあたっては、原則として純資産総額のおおむね50%以上を国債・地方債・投資適格社債に投資し、その残額は主にハイイールド社債に投資しました。ハイイールド社債の投資にあたっては業種分散によりポートフォリオ全体のリスクの低減を図るほか、徹底したファンダメンタル分析に基づく銘柄選択により個別銘柄の持つリスクを低減しました。

期初より、国債、投資適格社債、政府機関債を6割程度、ハイイールド社債をはじめとする参考指数であるバークレイズ米国政府／クレジット・インデックスに含まれていない種別の債券などを4割程度組み入れました。米国国債利回りが歴史的な低水準で推移しており、低金利政策は当面継続されることが予想されるため、投資家はハイイールド社債をはじめとするより利回りの高い資産へ資金を移動し、ハイイールド社債のリターンは国債や投資適格社債のリターンを上回る可能性が高いと考えました。このような見通しの下、ポートフォリオにおけるハイイールド社債への組み入れを高位に保ちました。

ポートフォリオのデュレーション戦略では、期初から2015年1月下旬にかけて参考指数より短期化しました。米国で量的緩和の終了が決定すると利上げ開始時期が意識されることにより金利には上昇圧力が加わる可能性が高いと判断しました。その後、3月まで参考指数並みの水準を維持し、4月に再度参考指数より短期化しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2014年10月25日～2015年4月24日)

当期の基準価額騰落率は+13.0%（1口当たり分配金100円（税込み）を含む）となり、参考指数であるバークレイズ米国政府／クレジット・インデックス（ヘッジなし・円ベース）の騰落率+13.4%を下回る結果となりました。

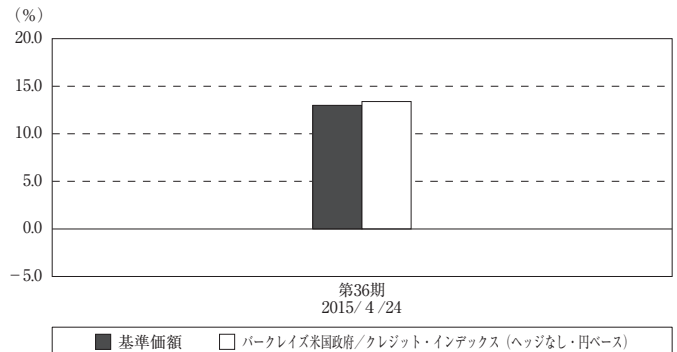
[プラス要因]

- ・ポートフォリオではハイイールド社債の組み入れを約4割としていましたが、投資適格社債を上回るリターンとなったことがプラスに寄与しました。

[マイナス要因]

- ・2014年10月から2015年1月下旬にかけてポートフォリオのデュレーションを参考指数より短期化していたことがマイナスに影響しました。

基準価額と参考指数の対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

(注) 参考指数は、バークレイズ米国政府／クレジット・インデックス（ヘッジなし・円ベース）です。参考指数の詳細は10ページをご参照ください。

分配金

(2014年10月25日～2015年4月24日)

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向および残存信託期間などを勘案し、1口当たり100円(税込み)とさせて頂きました。収益分配金に充てなかった収益につきましては、信託財産に留保して元本部分と同一の運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位：円、1口当たり、税込み)

項 目	第36期
	2014年10月25日 ～2015年4月24日
当期分配金	100
(対基準価額比率)	1.150%
当期の収益	100
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	894

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

<債券市場>

米国の国債・地方債・投資適格社債およびハイイールド社債を主要投資対象とし、安定した成長が見込まれる業種を選別した上で、分散投資を行うことで、インカムゲインの確保に加え、キャピタルゲインの獲得を目指します。ポートフォリオ構築に当たっては、原則として純資産総額のおおむね50%以上を国債・地方債・投資適格社債に投資し、その残額を主にハイイールド社債に投資します。ハイイールド社債の投資にあたっては業種分散によりポートフォリオ全体のリスクの低減を図るほか、徹底したファンダメンタル分析に基づく銘柄選択により個別銘柄の持つリスクの低減を目指します。

米国では、雇用情勢の回復が継続していることから緩やかな景気回復局面が継続することが予想されます。FRBは景気、物価情勢を見極めながら利上げ開始のタイミングを慎重に計ることが見込まれます。海外市場では引き続き積極的な緩和政策がとられていることから金利上昇幅は限定的となる可能性が高いものの、米国金利には上昇圧力が加わることが想定されます。

一方で、米国国債利回りは依然として多くの投資家が必要とする利回り水準をはるかに下回る水準に位置しているとみられます。FRBの低金利政策が当面継続することが見込まれることを考えると、中期的な観点からは、ハイイールド社債をはじめとする利回りの高い資産を選好する動きが続く可能性が高いと考えています。

以上の見通しの下、デュレーションは参考指数並みからやや下回る水準とする方針です。また、ハイイールド社債をはじめとする参考指数に含まれていない債券に40-45%程度の配分を行います。

<為替市場>

日本銀行の異次元の金融緩和は今後も継続され、景気・物価動向によっては追加緩和の可能性も残っています。一方、米国ではFRBが利上げ開始のタイミングを計ることが予想されることから、為替市場では円の上値は重くなることが予想されます。以上の見通しの下、為替ヘッジは行わない方針です。

お知らせ

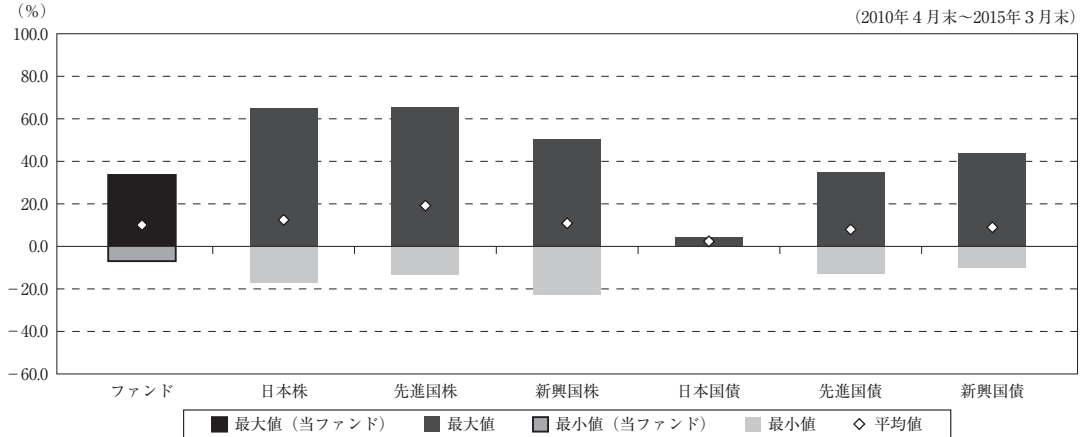
- ・金融商品取引法および投資信託及び投資法人に関する法律等の改正に係る政令・内閣府令、一般社団法人投資信託協会の諸規則等が施行・実施されたことに伴い、①運用報告書の電磁的方法による交付、②デリバティブ取引に係るリスク管理の方法-について関連する条項に変更を行いました。(2014年12月1日)
- ・金融商品取引法および投資信託及び投資法人に関する法律等の改正に係る政令・内閣府令、一般社団法人投資信託協会の諸規則等が施行・実施されたことに伴い、新たに定められた「信用リスク集中回避のための投資制限」の規定に対応するため、関連する条項に変更を行いました。(2015年1月22日)

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券
信託期間	無期限
運用方針	・米国の国債・地方債・投資適格事業債およびハイイールド事業債を主要投資対象とし、投資信託財産の成長を目標として運用を行います。
主要投資対象	米国の国債・地方債・投資適格事業債およびハイイールド事業債を主要投資対象とします。
運用方法	・主として、米国の国債・地方債・投資適格事業債およびハイイールド事業債への投資を行います。 ・安定した成長が見込まれる業種を選別した上で、分散投資を行い、信用リスクの低減を図ります。
分配方針	原則として、年2回の毎決算時（4・10月の各24日、該当日が休業日の場合は翌営業日）に委託会社が、基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して分配を行います。 ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わないことがあります。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
平均値	10.1	12.5	19.2	10.9	2.4	8.0	9.0
最大値	33.6	65.0	65.7	50.5	4.5	34.9	43.7
最小値	-6.9	-17.0	-13.6	-22.8	0.4	-12.7	-10.1

(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2010年4月から2015年3月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株: TOPIX (東証株価指数) (配当込み)

先進国株: MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株: MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債: NOMURA - BPI国債

先進国債: シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債: JPモルガンGBI - EMグローバル・ダイバーシファイド (円ベース)

※各指数についての説明は、P10の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2015年4月24日現在)

○組入上位10銘柄

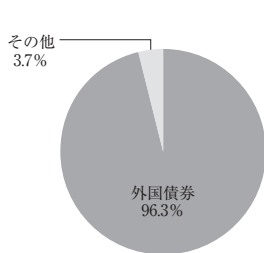
	銘柄名	業種／種別等	通貨	国(地域)	比率 %
1	アメリカ国債 1.0% 2016/9/30	国債証券	米ドル	米国	3.2
2	アメリカ国債 0.625% 2017/11/30	国債証券	米ドル	米国	3.2
3	アメリカ国債 0.875% 2017/7/15	国債証券	米ドル	米国	2.8
4	アメリカ国債 4.375% 2039/11/15	国債証券	米ドル	米国	2.7
5	アメリカ国債 3.0% 2044/11/15	国債証券	米ドル	米国	2.6
6	アメリカ国債 2.0% 2025/2/15	国債証券	米ドル	米国	2.4
7	アメリカ国債 3.875% 2040/8/15	国債証券	米ドル	米国	2.0
8	アメリカ国債 4.375% 2040/5/15	国債証券	米ドル	米国	2.0
9	アメリカ国債 0.5% 2016/9/30	国債証券	米ドル	米国	1.6
10	アメリカ国債 3.75% 2041/8/15	国債証券	米ドル	米国	1.4
組入銘柄数				264銘柄	

(注) 比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

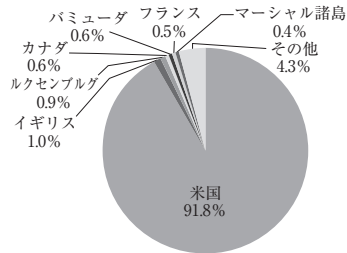
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行体の国籍(所在国)などを表示しております。

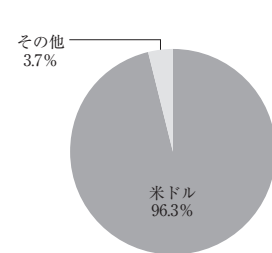
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行体の国籍(所在国)などを表示しております。

(注) その他には現金等を含む場合があります。

純資産等

項目	第36期末
	2015年4月24日
純資産総額	1,300,752,973円
受益権総口数	151,347口
1口当たり基準価額	8,595円

* 期中における追加設定元本額は91,140,000円、同解約元本額は69,330,000円です。

<当ファンドの参考指数について>

当ファンドはベンチマークを定めていないため、参考指数としてバークレイズ米国政府／クレジット・インデックス（ヘッジなし・円ベース）を掲載しています。バークレイズ米国政府／クレジット・インデックスは、米ドル建て投資適格政府債およびクレジット債市場のパフォーマンスをあらわすものです。当該参考指数は、バークレイズ・バンク・ピーエルシーおよび関連会社（バークレイズ）が公表する基準日前営業日の設定日以来トータル・リターン（円ベース）をもとに、当社で独自に指数化したものです。バークレイズ・インデックスは、バークレイズが開発、算出、公表をおこなうインデックスであり、当該インデックスに関する知的財産権およびその他の一切の権利はバークレイズに帰属します。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

○TOPIX（東証株価指数）（配当込み）

TOPIXは、東京証券取引所第一部に上場している内国普通株式全銘柄の株価を対象として算出した指数です。TOPIXは、東京証券取引所の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、東京証券取引所が有しています。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

○MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他の知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。なお、円ベース指数については、委託会社がMSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、米ドルベース）に、当日の米ドル為替レート（WM／ロイター値）を乗じて算出しています。

○NOMURA - BPI国債

NOMURA - BPI国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA - BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

○シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、Citigroup Index LLCが開発した日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数で、著作権、商標権、知的財産権、その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。

○JPモルガンGBI - EMグローバル・ダイバーシファイド（円ベース）

JPモルガンGBI - EMグローバル・ダイバーシファイドは、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。円ベース指数については、委託会社がJPモルガンGBI - EMグローバル・ダイバーシファイド（米ドルベース）に、当日の米ドル為替レート（WM／ロイター値）を乗じて算出しています。

本指数は、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2015, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.